

インフラマネジメントシンポジウム 21日 2F 平安

『インフラ点検のすゝめ』出版記念シンポジウム 技術者は育てなければ育たない!

●コーディネーター



中川 均

なかがわひとし
JFMA インフラマネジメント部会長
株式会社ガイアート

●パネリスト



宮里 心一

みやざとしんいち
金沢工業大学教授



植野 芳彦

うえのよしひこ
富山市
建設技術統括監



松本 健

まつもと たけし
国土交通省
道路局国道・技術課
道路メンテナンス企画室長

●パネリスト



丸山 久一

まるやまきゆういち
長岡技術科学大学
名誉教授



田村 裕美

たむらひろみ
一般社団法人
ソーシャルテクニカ



盛重 知也

もりしげともや
西松建設株式会社



渡邊 大介

わたなべ だいすけ
株式会社ガイアート



岩佐 宏一

いわさこういち
アイセイ株式会社

開催趣旨

当部会はマネジメントの基本となる技術者の育成に焦点を絞り、自治体職員をはじめインフラ点検の業務に関係する技術者が、枯渇することなく育成されるために現場目線の点検本を作成した、それが『インフラ点検のすゝめ』である。

本シンポジウムではインフラ点検分野において、各方

面で技術者育成に多大な貢献をされている方々に登壇いただき熱き議論を展開した。「予算も人もない!」という課題を抱える自治体インフラ点検分野において、人材を枯渇させないことが荒廃する国土への最大の防止策である。本シンポジウムでは自治体インフラが抱える危機感を参加者と共有した。

講演

自治体を支える教育者の立場

宮里 心一 (金沢工業大学 教授)

- ポイント：リカレント教育(社会人のキャリアアップ)の重要性
 - ・多くの市町村で技術研鑽的な「場」は開かれていない
 - ・地域の大学・高専による支援体制が必要(MEやリカレント教育)
 - ・リカレント教育を通して、世代を越えた知識の基盤を整備(世界は日本より進んでいる)

危機から這い上がる自治体の底力

植野 芳彦 (富山市建設技術統括監)

- ポイント：技術者は自分の意志で、自分の体験で、自分に厳しく学ぶべき
 - ・総合的な運営管理が必要な時代に、技術者として何を目的とするのかを考える
 - ・新たな思考をもった人材の経験と判断能力を培う必要がある

- ・富山市では新技術導入のフィールドを提供している。新技術もやってみないとわからない
- ・技術者は真の技術力「本質を見極める力」を身につけるためにどうすべきか考える

出版にあたって「ワンチームで臨んだ作成の思い出」

田村 裕美 (インフラマネジメント研究部会 インフラ点検教本 WG リーダー)

- **ポイント：地方自治体(若手)技術者や市民にもわかるインフラメンテナンス教本づくり**
- ・ターゲットは若手技術者、行政職員、一般市民
- ・道路、橋、トンネルの3分野のそれぞれのプロが集結し「点検で重要なTOP10」を考えた
- ・発刊できたというより、「チームができた」ことが大きな成果
- ・すでに行政職員250人(250自治体)が持っている

パネルディスカッション

テーマ：災害を想定外にしないために

丸山 久一 (インフラマネジメント研究部会 顧問)

- **ポイント：国の支援等に対する地方自治体としての受け皿を育てる**
- ・インフラ維持管理に対する注目が(以前より)集まってきたが、地方自治体は引き続き予算等の課題山積
- ・自治体に人(技術者)がいないと、いざ維持管理を実践するときに対応できない
- ・ME新潟は毎年40名の定員以上の応募がある

盛重知也 (西松建設株式会社)

- **ポイント：住民の生命や財産を守るという技術者の思い**
- ・「いいものを造ろう」という技術者の気持ちが変わってきているのではないか
- ・かつては例えば、複雑・美しい造形、劣悪な施工環境を克服、利便性の向上などに貢献することに技術者として意義を感じた
- ・昨今では、災害を強く意識(必ず起こると意識)、あるいはトレーサビリティ(企業防衛)に軸足が移っている

渡邊 大介 (株式会社ガイアート)

- **ポイント：消防団のような地域を守る仕組みをインフラメンテナンスに**
- ・全国に84万人の団員がいて、普段は消火活動、行方不明者捜索等を行っている
- ・消火栓等の設備点検などを通して、地域の消防インフラの維持管理の一部を担っている
- ・消防団の仕組みをインフラ維持管理に応用できないか?

岩佐 宏一 (アイセイ株式会社)

- **ポイント：インフラメンテナンスの現状を市民に伝える重要性**
- ・点検業務の「格好いい」姿をどう魅せるかを考え、映画監

督に動画撮影を依頼

- ・小学校でインフラメンテナンスの出前授業も実施(作・業着姿で授業)

来賓 松本 健

(国土交通省 道路局 国道・技術課 道路メンテナンス企画室長)

- **ポイント：自治体メンテナンスを、仕組みづくり、補助金制度、教育機会提供等の面からサポート**
- ・修繕を計画的に進めていくために、個別施設計画策定を推進(橋梁で8割程度策定済)
- ・道路メンテナンス事業補助制度を創設(R2年度予算2,223億円)
- ・道路メンテナンスセンター(関東&中部)を設置
- ・今後も地方公共団体のニーズを踏まえ、国としてどのようなサポートができるのかを考えていく

パネルディスカッション話題提供

コーディネーター

中川 均 (インフラマネジメント研究部会 部会長)

地域包括ケアシステム(地域医療支援のシステム)とインフラの維持管理は似ている?

パネラーからの発言

保健所の機能は例えば市役所?保健士の役割は技術職員?

- インフラメンテナンスはさまざまなファクターがあり、現実的には同じようには考えられないのでは
- インフラメンテナンスは「答え」がすぐに出ない
- ヒトの高齢化問題と同じように、健全度Ⅲ~Ⅳが今後増えていく
- ✓ 地域ボランティア
- 地域を日常的に見ているひとがメンテナンスに携わるほうが効果的
- 消防団の良さとして、技術の伝承、コミュニケーションが取れる仕組みがある
- 維持管理は学問的に難しい割に世間的な評価が低い
- ✓ MEのような地域ネットワークが重要
- ✓ 地方の維持管理技術者は、市町村職員ではなく地元企業やME等に任せるという考え方もある

最後に副部会長のアイセイ株式会社代表 岩佐宏一から来年度のフォーラムテーマ予告

インフラテクコン2021全国の

高等専門学校生を対象にした技術の競技会開催

コンテストテーマ：メンテナンスサイクルをテクニカル手法で解決!マネジメントサイクルをマネジメント手法で解決!

(文責：JFMA インフラマネジメント研究部会長 中川均) ◀